

第219回 番組審議会

1. 日 時 平成25年2月12日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 12名
出席委員数 8名 (欠席委員数 4名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)
竹中 陽一 (副委員長)
—以下50音順—
木戸場美代子
久慈 浩介
斎藤 純
斎藤 雅博
菅原 正二
吉田 浩次

○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)
小原 忍 (専務取締役)
藤澤 利憲 (常務取締役)
前田 秀男 (取締役編成技術局長)
藤原 銀司 (取締役営業局長)
岩渕 博美 (岩手めんこいテレビ編成部副部長)
紅屋 幸樹 (めんこいエンタープライズ制作部)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4、議題 『山・海・漬放送700回記念スペシャル 山・海・漬はいわたの宝石箱や
～ 岩手の恵み満喫紀行 前・後篇』

平成25年1月19日(土)、26日(土) 18:30～19:00放送

5. 議 事 概 要

今回は1月19日・26日(土)の午後6時30分に放送された『山・海・漬放送700回記念スペシャル 山・海・漬はいわたの宝石箱や～ 岩手の恵み満喫紀行 前・後篇』を審議しました。議事の概要は以下の通りです。

● 岩手めんこいテレビ 岩渕プロデューサーの説明

- ・1996年10月にスタートした「山・海・漬」は、先月1月19日に放送700回を迎えた。16年以上もの長い間番組を続けることができたのは、視聴者、取材先の皆様の支援によるものと感謝している。
- ・今回は700回のスペシャル企画ということで、グルメリポーターの彦摩呂さんをゲストに迎え岩手の恵みを満喫する2週連続企画にした。
- ・彦摩呂さんについては、ユニークなコメントで楽しませてくれること、「山・海・漬」のイメージを壊さない、温かさが伝わるという理由から起用した。

● めんこいエンタープライズ 紅屋ディレクターの説明

- ・放送開始から16年、「山・海・漬」は魅力ある岩手の大自然、山海の魅力はもちろん、歴史・文化などを伝え続けてきた。その積み重ねを「宝石箱」と表現し、岩手の魅力を彦摩呂さんのレポートによって更に魅力的なものとして伝えたいと制作した。
- ・前篇は盛岡・花巻等県央でまとめ、後篇は三陸と県南にスポットを当て「岩手ならではの」「岩手が全国に誇れるもの」を山と海でくくった。また700回記念プレゼントを

用意し視聴者に感謝の気持ちを伝えた。

- ・今年度1月まで平均視聴率は、13.6%を維持している。
引き続きめんこいテレビの看板番組として支持されるよう努めていきたい。

● 出席委員からの意見

- ・「継続していく」ことが重要。700回は通過点。あまり形にとらわれず岩手の魅力を広めてほしい。
- ・視聴者が「行ってみたい」「食べてみたい」と思えば、番組は成功。新たな発見もあり、その魅力が伝わった内容であった。
- ・情報番組として安心して見ることができ、情報量も伝え方も親切だった。
- ・彦磨呂さんのような県外から来た方に岩手の食材を褒めてもらうことで、これまでとは別の面白さや喜びが感じられた。
- ・日本一を誇る南部杜氏の里で地酒の話題がなかったこと、県北部の話題がなかったことが残念だった。
- ・三陸復興のためにも、三陸の隠された魅力を探し出して紹介してほしい。
- ・県北の話題も入れて3週連続で県内全てを網羅してもよかったのではないか。
- ・岩手の魅力を詰め込んだ「山・海・漬」をぜひ全国放送し、三陸をはじめとする岩手県への観光客増員に役立ててほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

- * 平成25年2月13日(水) 産経新聞 東北版
- * 平成25年2月23日(土) 午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番組審りポート」内で放送
- * 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし